

# 再開発ビルを解体：大型木造温泉「さくら湯」を復元

(熊本県山鹿市)

さくら湯は山鹿温泉のシンボルである。熊本藩主・細川家の休憩所「御茶屋」に起源をもち、明治31年に松山市の道後温泉を手がけた棟梁を招き大規模な改修工事を行い、大型木造温泉として親しまれていた。昭和48年に取り壊され、跡地は鉄筋コンクリート造の再開発ビルとなり、その1階に公共温泉が設けられた。

山鹿市は、老朽化した再開発ビルの解体撤去と木造公共温泉の再建方針を掲げ、歴史まちづくり計画に位置付けて実行に移した。

さくら湯を復元的に新築したことで、湯のまちの歴史的な佇まいが戻り、温泉の歴史を紹介する展示や公園としての機能も実現した。



木造温泉として再生されたさくら湯(豊前街道沿い(北側)からの外観)



往時のさくら湯



再開発ビルの一部に取り込まれた時期のさくら湯  
(越澤明 撮影)



豊前街道の反対側(南側)に位置するさくら湯の玄関

## 【事業に関する情報】

- ・さくら湯を木造建築物で再建することに際し、建築審査会の協議を経て当該地域の準防火地域の指定を外した。
- ・再生したさくら湯の「入湯手形」や、八千代座・山鹿灯籠(とうろう)民芸館等の入館料が無料となる「観光手形」を発行し、総工費の一部を寄付で集め、再建に対する人々の関心を集めた。

## 【事業関連データ】(計画認定:平成 21 年)

- 事業名** さくら湯再生及び公園整備事業
- 事業実施重点区域名** 山鹿湯まち地区
- 事業主体** 山鹿市
- 事業期間** 平成20年度～平成 24 年度
- 活用した補助金**  
国土交通省  
・社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業)

- 事業の実施に伴う土地・建物の取得**  
・なし
- 文化財等の指定状況**  
・なし

## 【有識者からのコメント】

大型旅館の温泉地が衰退する中で、高度成長期の再開発ビルを解体撤去し、明治期の姿に復元的に新築した「さくら湯」は、市の方針を踏まえて市民と行政が協働して具体案を検討し、歴史まちづくり法国庫補助を最大限に活用した点に特色がある。この場所は温泉市街地の幹線道路の交差点に位置し、準防火地域の指定解除という全国的にも類例が少ない取組も実行した。象徴的な木造建築の復元・新築と防火規制の緩和や適用除外をどう調整するかという点で、全国の自治体にとっても示唆に富む事例である。対面の既設公園とも一体的に機能し、中心市街地の公共空間の質の向上という点でも評価できる。(越澤)